

吾妻山の火山活動解説資料（平成 26 年 8 月）

仙台管区気象台
火山監視・情報センター

大穴火口の噴気活動はやや活発な状態が続いています。火山性地震は少ない状況で経過し、火山性微動も観測されませんでした。ただちに噴火する兆候は認められませんが、火口内等では火山ガスの噴出が引き続きみられますので警戒してください。また、火口外でも風下側では火山ガスに注意してください。

平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図 1～3、図 4-①、④）

上野寺（大穴火口の東北東約 14km）に設置してある遠望カメラによる観測では、大穴火口（一切経山南側山腹）の噴気の高さは噴気孔から 30～100m で経過し、噴気活動はやや活発な状態が続いています。

5 日に実施した現地調査では、前回（2014 年 7 月 2 日）と比較して、大穴火口付近の噴気や地熱域¹⁾の状況に、特段の変化は認められませんでした。

- 1) 赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

・地震や微動の発生状況（図 4-②、③、⑤～⑧）

火山性地震は少ない状況で経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図 5、図 6-①、②）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 26 年 9 月分）は平成 26 年 10 月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、東北大学のデータを利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。



図1 吾妻山 大穴火口からの噴気の状況（8月14日）

- ・福島市上野寺（大穴火口から東北東約14km）に設置してある遠望カメラの映像です。
- ・実線赤丸で囲んだ部分が、大穴北西側火口壁の白色噴気で高さは100mです。



図2 吾妻山 噴気や地熱域の分布図及び写真と地表面温度分布撮影位置

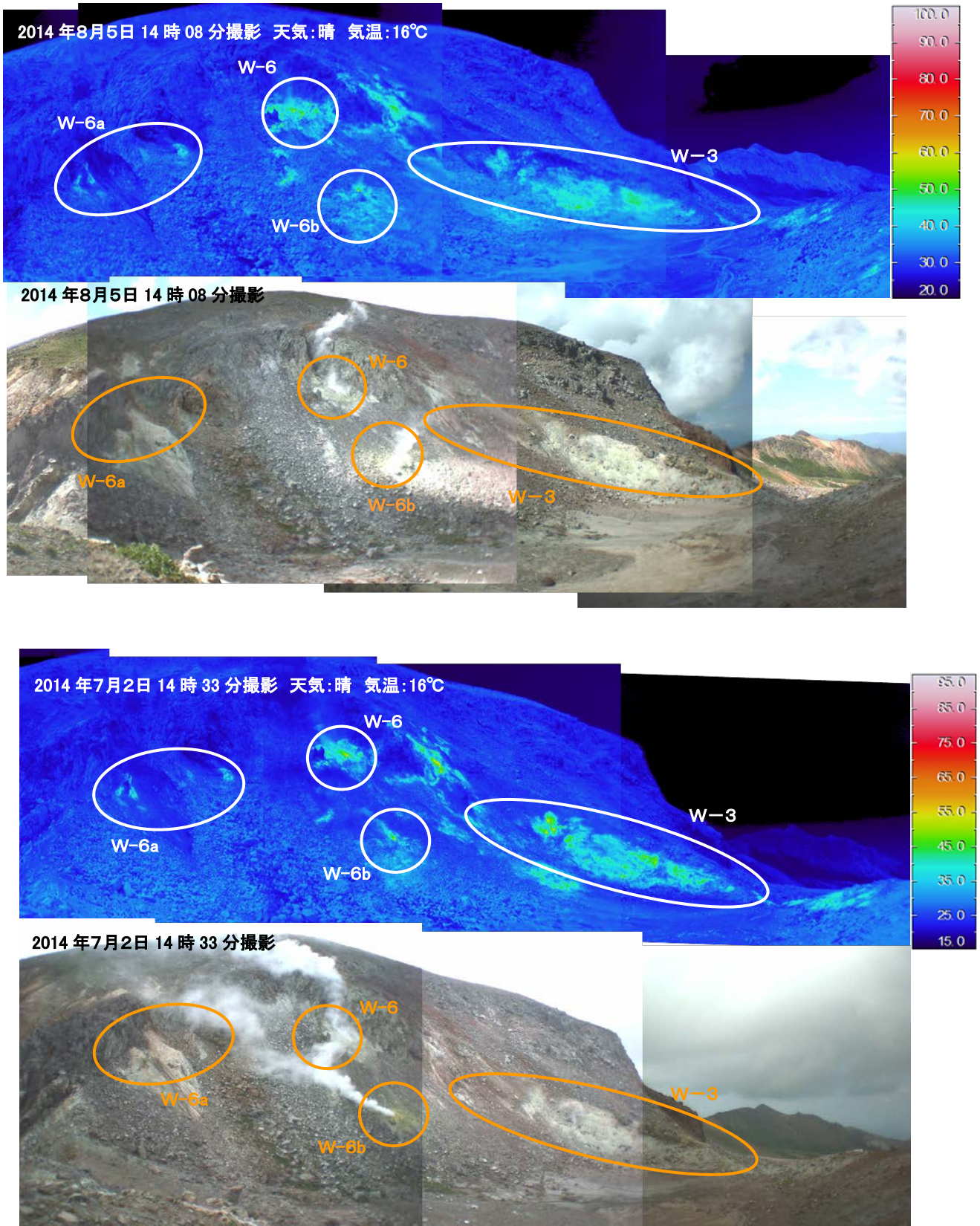


図3 吾妻山 大穴火口の状況と地表面温度分布

・噴気や地熱域の状況に特段の変化は認められませんでした。

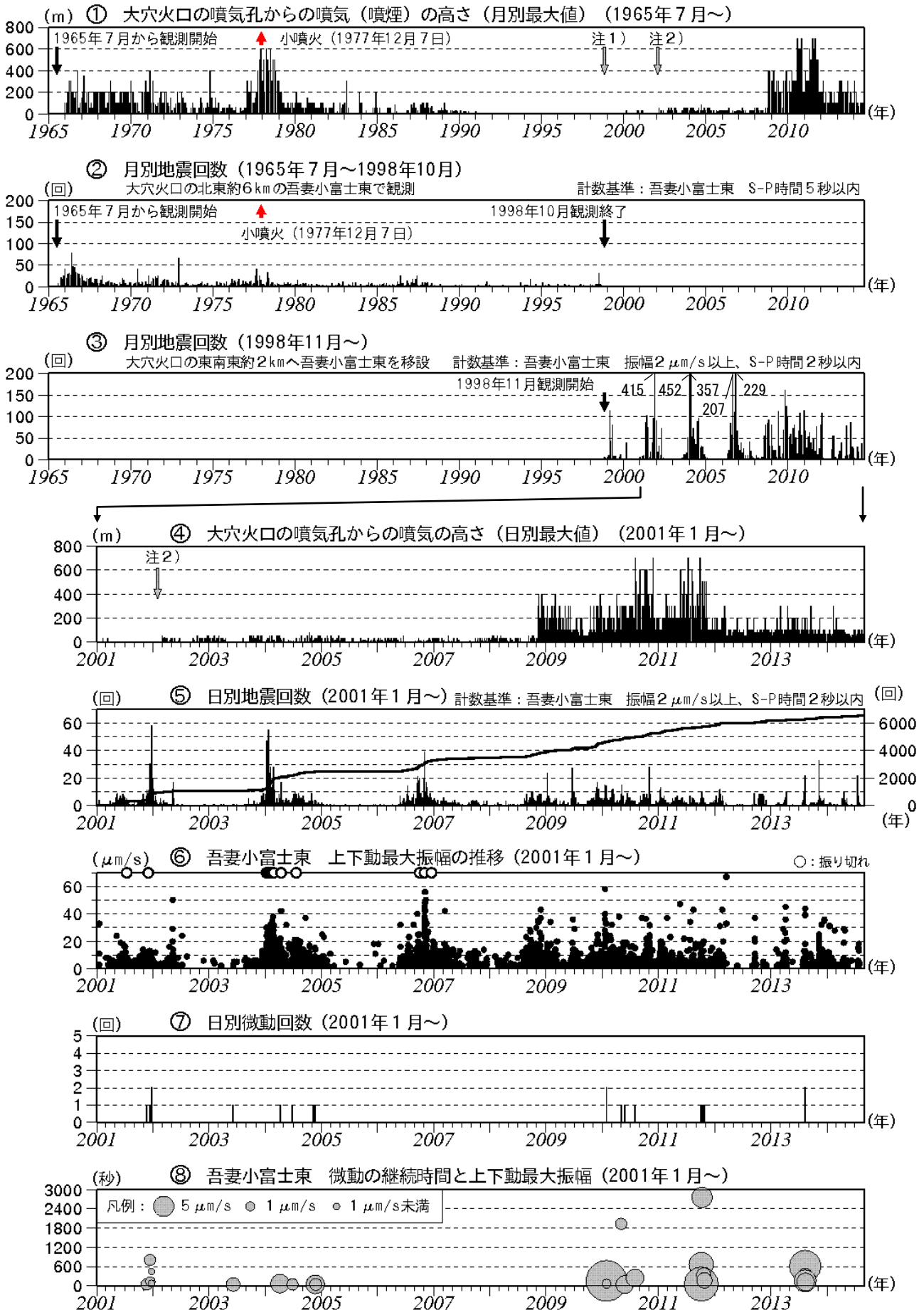


図4 吾妻山 火山活動経過図 (1965年7月～2014年8月)

- ・①注1) 1998年以前は福島地方気象台 (大穴火口の東北東約20km) からの目視観測で、1998年からは遠望カメラ (大穴火口の東北東約14km) による観測です。
- ・①、④注2) 2002年2月以前は定時(09時、15時)及び随時観測による高さ、2002年3月以後は24時間観測による高さです。

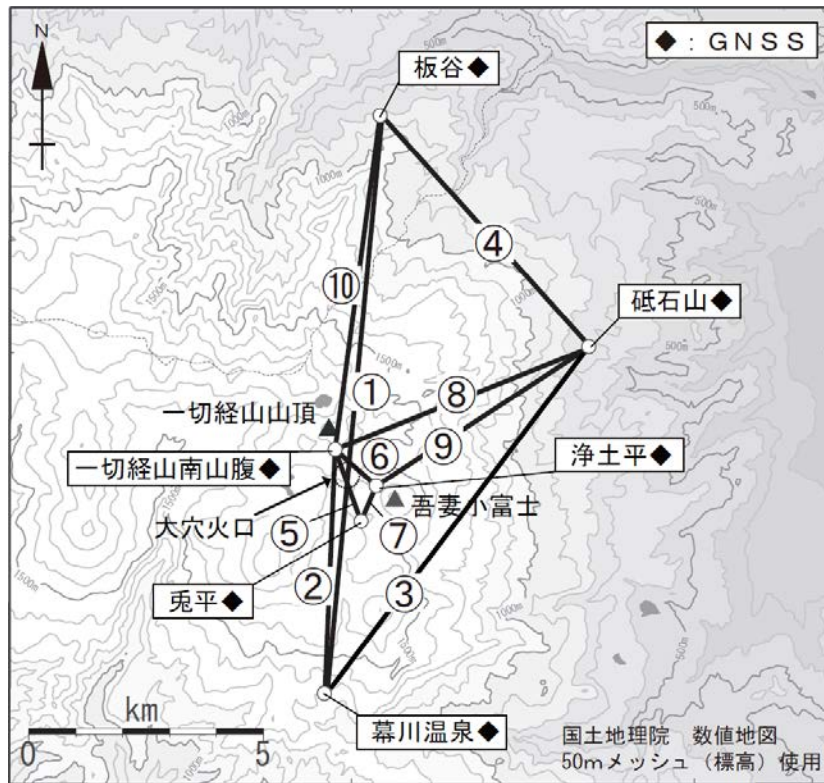


図5 吾妻山 GNSS²⁾ 観測点配置図

2) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

小さな白丸 (○) は気象庁の観測点位置を示しています。

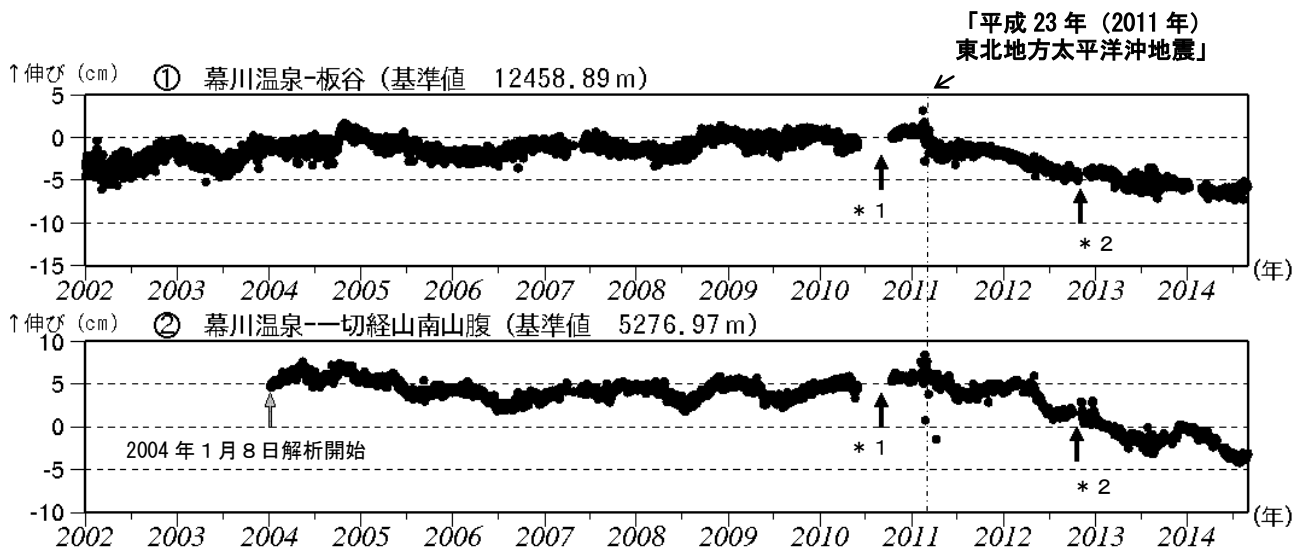


図6-① 吾妻山 GNSS 基線長変化図 (2002 年 1 月～2014 年 8 月)

- ・ 2010 年 10 月以降のデータについては、電離層の影響を補正する等、解析方法を改良しています。
- ・ 「平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
- ・ ①～②は図5の GNSS 基線①～②に対応しています。
- ・ グラフの空白部分は欠測を表しています。
- ・ 2013 年 11 月以降、一切経山南山腹観測点では原因不明の変動が観測されていますが、火山活動に起因するものではありません。
- ・ 各基線の基準値は補正等により変更する場合があります。
- * 1 : 幕川温泉観測点の機器を更新しました。
- * 2 : 板谷観測点と一切経山南山腹観測点の機器を更新しました。

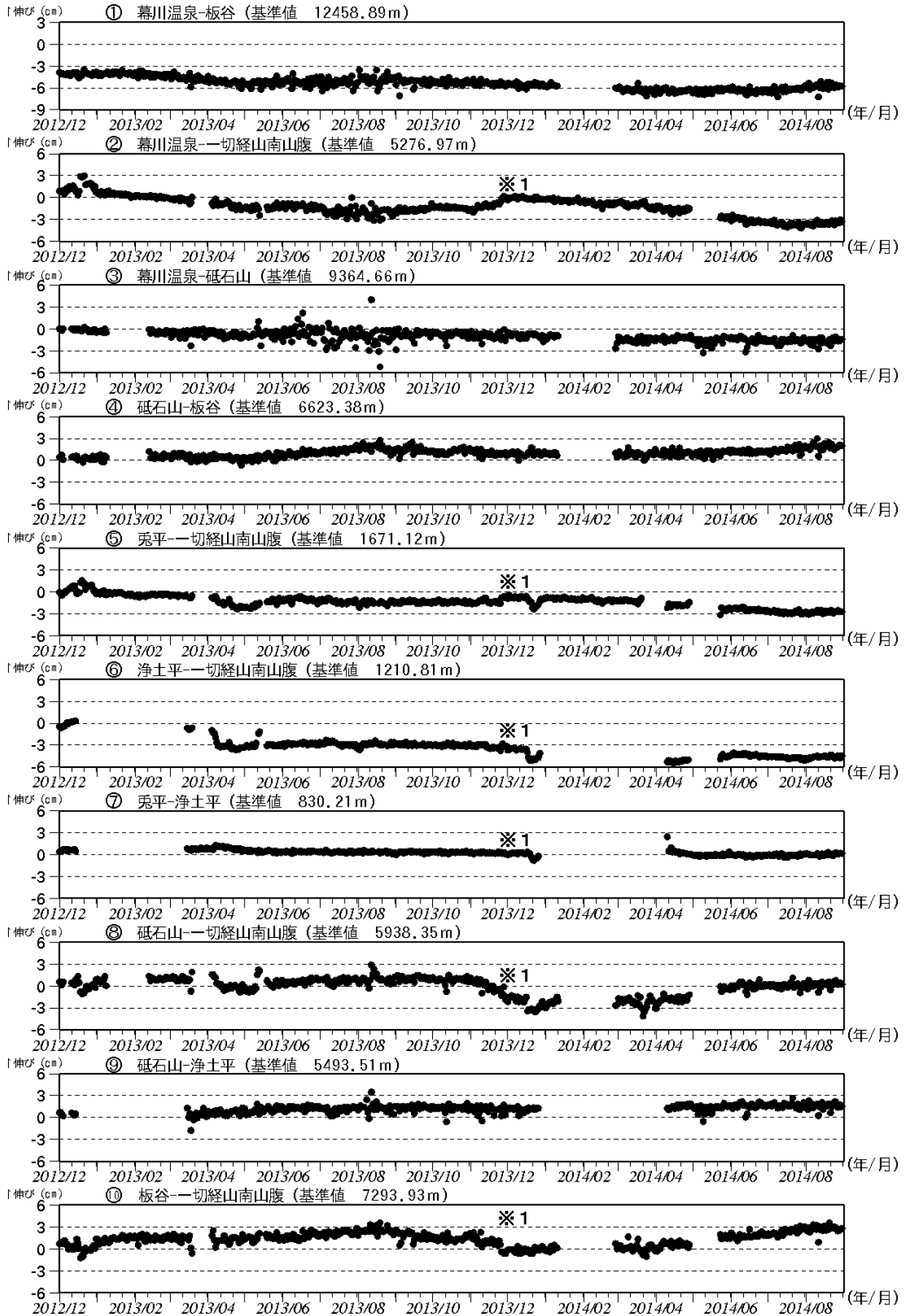


図 6-② 吾妻山 GNSS 基線長変化図 (2012 年 12 月～2014 年 8 月)

- ・ ①～⑩は図 5 の GNSS 基線①～⑩に対応しています。
 - ・ グラフの空白部分は欠測を表しています。
 - ・ 2012 年 11 月に機器の更新と移設を実施しました。
 - ・ 各基線の基準値は補正等により変更する場合があります。
- ※ 1 2013 年 11 月以降、一切経山南山腹観測点と兔平観測点では原因不明の変動が観測されていますが、火山活動に起因するものではありません。



図7 吾妻山 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（東）：東北大学